

平成二十八年 度

国 語

（第一回 A 入 試）

注 意

- 一 試験開始のチャイムが鳴るまで、表紙を開いてはいけません。
- 二 試験開始のチャイムが鳴ったら、まず問題の表紙と解答用紙の決められた所に受験番号と氏名を書き、問題のページ数を確かめてから始めなさい。
- 三 この問題は十ページあります。ページの不足や乱れがあったら、だまって手をあげなさい。
- 四 印刷のはつきりしていない所があったら、だまって手をあげなさい。
- 五 試験終了のチャイムが鳴ったら、すぐ鉛筆を置きなさい。
- 六 問題・解答用紙ともに集めますので、両方とも机の上に表を上にして置きなさい。

受 験 番 号	氏 名

一

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。ただし、字数制限のある解答については、句読点も一字とします。

園芸の趣味と中型犬や大型犬の趣味を両立させるのはむずかしいといわれる。柴犬や小型のテリアでも室内で飼わないと、植木や花のある庭に遠慮会釈もなく穴を掘る。二つの趣味を両立させるには、庭に金網張りの犬舎を作らなければならない。

A 日本の都会での土地事情を考えると、収入と時間にかなり余裕のある人でなければ、こういうことはできない。

B、なぜイヌは土に穴を掘りたがるかといえば、これも遠い祖先のオオカミの習性が残されているからだ。オオカミは山の斜面の大きな木の下などに巣を作るが、この巣は穴ぼこになっている。巣を作るとき、オオカミは慎重に場所を選ぶ。大雨が降ってすぐ水びたしになるところでは、子どもたちを育てられない。また自分たちより強い猛獣に狙われたら、急遽、巣を別のところに移さなければならない。

C、①オオカミにとって穴掘りは死活にかかわる作業だった。それで、イヌにもその習性が残されたと考えられる。

さらにいえば、穴掘りはオオカミの狩猟にも関係がある。オオカミは大きな獲物を狙うときには、群のリーダーの指揮のもとに、チームプレイで獲物を倒すが、小動物を発見したときは単独での狩りを行なう。ウサギ、アナグマ、キツネなどが単独ハントの対象だが、彼らを②追いつめると、巣穴の中に逃げこむ。その入口は小さい。

D、③前肢を使って穴を掘るわけである。

その他、オオカミは食べ残した肉を隠すときにも穴を掘っている。通常、オオカミの群はファミリーで形成されていて、七、八頭単位である。この集団だけではウマ、ウシなどは倒せないから、④大集団を組むことになる。倒した獲物はその場で食べてしまう。

だが、ときに獲物を食べきれない場合がある。それは七、八頭の成獣だけの群で、大きなシカなどを倒したときである。満腹になっても、獲物の肉がまだ大量に残されていると、それぞれが肉片をむしり取り、④穴を掘って埋めるという行動をする。

なぜこうするかといえば、タカ、カラスなど、オオカミの獲物の残りものを専門に狙う鳥類がいるからである。オオカミたちには食料の保存をしておくという^ウ観念があるのだろう。また、土中に埋めることで、腐敗を防げるということを知っているのかも知れない。

肉片を穴に埋めるときの穴はかなり深い。その手順は、まず肉をくわえてから、然るべき場所に運んで、前肢でせっせと掘る。掘り終わったら、肉片を下に落として、鼻づらを使って土をかけていく。

E、オオカミから伝えられたこの習性を生かして作出されたのが、小型のテリアたちである。小型テリアの大半はいまでは愛玩犬^{あいがん}として飼われているが、本来は獣猟犬のグループの中の分派なのだ。

テリアという名称の語源は「大地」という意味のラテン語の「テラ」である。すなわち、テリアとは「大地を嗅ぎまわって獲物を捜す犬」の意味である。猟犬としてのテリアはアナグマ、キツネ、カワウソなどの巣穴を見つけると、穴を掘って獲物を誘いだす。

カワウソは水中から陸に向かってトンネル状の巣をつくるから、水泳の達者なエアデールテリアの専門分野であったが、キツネ猟では、キツネよりも体型の小さいワイヤヘアード・フォックステリアが、キツネの巣穴を掘って誘い出していた。テリアがまだ猟犬として使われていた時代、獲物はイギリスの貧しい農家にとって、現金の貴重な収入源であった。アナグマはともかく、キツネやカワウソの皮は高く売れたからである。

庭でイヌを放し飼いにしたことのある人なら、イヌにウシの骨を与えると、前肢で抑えこんでガリガリとかじった後、食べ残した分はどこかに隠してしまうことを知っているはずである。ウシの骨の大きなものは、いかに強靱^{きやうじん}なイヌの歯でも、一度に咬み砕いては食べきれない。そこで食べあきるとイヌは、庭に穴を掘って隠してしまう。

どこに隠したかを飼主が捜しに行くと、イヌは狼狽^{ろうばい}して、骨を埋めた土の上に伏せて、尾を振りながら吠えることがある。そのボディランゲージは、上位の者に対して、「ここに埋めてある骨は自分のものだから、横取りしては困る」と**X**を主張しているのである。人間は嗅覚が発達していないから、イヌの行動はわざわざ骨の隠し場所を教えている結果になる。

このケースで⑤飼主が骨を掘りだすと、イヌは怒って主人を咬むこともある。したがって、イヌに生の骨は与えるなどという専門家もいるが、その^エ是非はともかくとして、この行動から類推されるのは、オオカミの社会のルールである。

オオカミの場合、食べ残した肉片をそれぞれが隠すのは獲物を倒した場所の近くののだが、そのとき上位下位の区別はなく、後で他者のものを横取りするのは^オ厳禁^{げんきん}というきまりがあるように思われる。つまり、それぞれが**Y**を主張できるといふわけだ。

だが稀^{まれ}に、肉片を自分の巢の近くにまで運んでいつて埋めているのは、横取りをする者もいるからに違いない。肉の所有権をめぐって、無用のトラブルを避けたいという気持ちがあるとすれば、オオカミは相当の知恵者である。

この習性とは関係なく、イヌを庭に繋ぎ^{つな}っぱなしにすれば、彼らも穴を掘る。運動不足でストレスがたまるのが、この場合の穴掘りの動機だと考えられる。

(沼田陽一「イヌはなぜ人間になつたのか」による。作問の都合上、本文の一部を変更しています。)

問一 —— 線ア～オの漢字の読みをひらがなで答えなさい。

問二 **A**～**E**に入ることばとして最も適当なものを次のア～オからそれぞれ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号を使つてはいけません。

ア しかし イ つまり ウ ところで エ そこで オ では

問三 — 線①「オオカミにとつて作業だった」について、次の(1)・(2)の問いに答えなさい。

(1)「死活にかかわる」の意味として、最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 死んでしまうことに関係する。

イ 死なない方法をさがすことに関係する。

ウ 死ぬか生きるかということに關係する。

エ 生きているか死んでいるかを調べることに關係する。

(2) オオカミが穴を掘るのはどんなときですか。本文中から二つ書き抜いて答えなさい。

問四 — 線②「追いつめる」の主語にあたることばを同じ段落中から一語で探し、書き抜いて答えなさい。

問五 — 線③「大集団を組むことになる」とありますが、それはどんなときですか。本文中から十字で書き抜いて答えなさい。

問六 — 線④「穴を掘って埋めるといふ行動をする」とありますが、その目的を二十字以内で簡潔に答えなさい。

問七 次の一文は本文中のどの文の後にもどすと意味が通りますか。その文の最後の五字を書き抜いて答えなさい。

ネコが糞ふんに砂をかける動作では前肢を使うが、オオカミとイヌは、土を掛けるのに肢を使うことはない。

問八 — 線⑤「飼主が骨を掘りだすと、イヌは怒って主人を咬むこともある」とありますが、それはなぜですか。本文中のことばを使って、二十字以内で説明しなさい。

問九 X・Y にはどちらも同じ熟語が入ります。本文中から書き抜いて答えなさい。

問十 この文章の題として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア イヌとオオカミの共通点と違いについて

イ イヌがよく穴を掘るのはなぜか

ウ イヌの祖先はオオカミであるのかどうか

エ イヌが獲物を保存する理由について

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。ただし、字数制限のある解答については、句読点・記号も一字としません。

「わかる」ことは、① コミュニケーションを閉じる危険とつねに背中あわせです。

私たちが話をしている、つまらない相手というのがいますね。こちらの話をぜんぜん聴いていない人です。なんで私の話を聴いてくれないかという、先方にはこちらの言うことが全部わかっていているからです(少なくともご本人はそう思っているからです)。

その人にとっては、私は「いなくてもいい人間」なんです。だって、私の話はもうわかったから。「君の言いたいことはわかった」というのは、ですから「私の目の前から消えろ」という私の存在そのものを否定する遂行的なメッセージをも言外に発していることになります。

だから、② 私たちは「もう、わかったよ」と言われると傷つくのです。

聴き手に何の興味も示さないで熱く語り続ける語り手も、聴き手の存在を否定するメッセージを発信しているという点においては変わりません。

③ そういう人の話を聴かされると、私たちは弱い酸に侵されるように、深いところで傷つけられます。たとえば、校長先生のアチウレイの訓示とか、式典に来賓で来ている市会、ギインの挨拶みたいなものが、そのテンケイです。そういうものを聴かされると人間は苦痛を感じます。

これは苦痛を感じるのが、人間として正しい反応なんです。

こういう話が私たちに苦痛を与えるのは、そこでもやはり「扉」が閉じられているからです。

「扉が閉じられたことば」というのは、先ほども書いたとおり、聴き手に向かって、「あなたはいなくてもいい」と告げることばのことです。「あなたが私の話の内容を理解しようと理解しまいと、あなたがいようといまいと、私は今と同じことを言うだろう」と告げられて傷つかない人はいません。

ときどき「ひとりうなずき」をする人がいますね。自分で話していて、自分の話に自分でうなずく。私は「ひとりうなずき」の語り手と対面していると、気が滅入ってきます。言っていることが間違っていると、④ かに障るとか、そういう次元のことではありません。「おまえが私の話に同意しようと反対しようと、私は私の話に同意する」というきっぱりとした「聴き手無視」の態度に毒されて、なんだかこっちの生命力がよろよろと萎えてしまうのです。

そういうものです。

目の前にいる人に「気づかわれている」と生きたココチができて、「無視されている」とだんだん生命の炎が弱々しくなる。これはでも、人間として当然のことです。「シカト」といういじめ方が残酷なのは、そこに人間を存在しない人間のように扱うことで、「おまえはもう死んでいる」と無言のうちに告知しているからです。「殺してやる」というのなら、まだこっちは生きているわけですから、対処のしようもありますけれど、「死んでいる」と言われてしまうと、もう手も足も出ません。

私たちを傷つけ損なうコミュニケーションがどういうものがわかると、それをひっくり返すと、私たちが愉悦を感じ、生きている実感が湧いてくるコミュニケーションがどういうものであるかもわかります。

私たちが聴いて気分のよくなることばというのはいくつかの種類がありますが、そのすべてに共通するのは(誤解を招く表現ですが)、そこに誤解の余地が残されているということです。

奇妙に聞こえるでしょう？

でも、誤解の余地なく理解が行き届いたコミュニケーションではなく、誤解の余地が確保されているコミュニケーションこそが、私たちにコミュニケーションをしている実感をもたらしてくれるのです。

十代の若い人たちは、非常に会話の語りが貧困です。これは、みなさんも認めてくれると思います。

「むかつく」とか「うざい」とか「きもい」とか「かわいい」とか、ほんとうに十個くらいの単語だけで延々と会話をしている女子高校生などを電車の中でみかけます。

ふつうの大人の人は、そういうのを横で聴いて「近頃の若いもんは、なんという貧しいボキャブラリーで意思疎通を行

っているのだろう。あんなことでちゃんとしたコミュニケーションが成立しているのであらうか」と苦々しい顔をしたりします。

まったく、おっしゃる通りです。

あれじゃ、意思疎通はできっこありませんね。

洋服を見ても「かわいい」、化粧けしょうを見ても「かわいい」、音楽を聴いても「かわいい」。

あれでは、そのような形容詞を交わし合っているもの同士でも、何を言っているのかお互たがいの心の中がわかっていないか、はとも思われません。「かわいい」のが洋服の色について言われているのか、デザインについて言われているのか、ボタン穴の微妙な位置関係について言われているのか、スリットの角度について言われているのか、「これ、かわいいね」「うん、かわいいね」だけじゃ、わかりっこありません。

……ほらね。

ちゃんと、若い人たちだって、わざと誤解の幅があるように、コミュニケーションしているでしょう？

それこそが⑤コミュニケーションの「王道」だからです。

形容詞十個だけのチョー貧しいコミュニケーションでは、お互いに「何を言っているのか、よくわからない」。だから、聴く人間をつねに「不確かで曖昧な位置」にとどめおくことができる。それゆえに、これらの会話はコミュニケーションとして成立しているんです。

子どもたちが限定した語いでしかコミュニケーションできなくなったというのは、たしかに一つの「退行」現象ではあるのですが、人間というのは、本人にしかわからないオセツジツなる理由があつて「退行」しているんですし、退行するときだって、必ずそれなりのしかたで「戻り道」を確保しているんです（ヘンゼルとグレーテルが森の小徑こみちに撒いたパンくずみたいに）。

彼らのあのチョー貧しい語いは、「自分の言いたいことをきちんとことばにしなさい」という言われ方で、学校教育でずっと「正しい」とされてきた「自己表現」の強制に対する、子どもたちの側からの「ノー」ではないかと私は思っています。

ます。

「そんなことばづかいじゃ、コミュニケーションできない」、そういうふうに感じている子どもたちが、生半可な自己表現なまはんかに自分を託たくすことを拒こはんで、⑥ある種の失語症をみずから進んで病むことで、コミュニケーションを回復しようとしている。そんな気が私にはするのです。

（内田 樹『先生はえらい』による。作問の都合上、本文の一部を変更しています。）

*愉快…心から満足して喜ぶこと。

問一 — 線ア〰オのカタカナを漢字に直して答えなさい。

問二 — 線①「コミュニケーション」を言いかえたことばを、本文中から四字で書き抜いて答えなさい。

問三 — 線②「私たちは『もう、わかったよ』と言われると傷つくのです」とありますが、その理由として最も適切なものを次のア〰エから選び、記号で答えなさい。

ア 自分で話して、自分の話に自分でうなずく「ひとりうなずき」をされることになるから。

イ 話し相手から、私はいなくてもいい人間だと判断されているのと同じだから。

ウ 話し相手から、つまらない相手だと宣言されていることになるから。

エ コミュニケーションを閉じる危険と、つねに背中あわせになるから。

問四 — 線③「そういう人」の指す内容を、本文中から書き抜いて答えなさい。

問五 — 線④「かんに障る」の意味として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア さびしさを感じさせる イ 少し悲しくなる

ウ 気に入らない エ とても傷つく

問六 — 線⑤「コミュニケーションの『王道』」とありますが、筆者はどのようなコミュニケーションを「王道」だと考えているのですか。本文中から二十五字以内で探し、書き抜いて答えなさい。

問七 — 線⑥「ある種の失語症をみずから進んで病む」とありますが、だれがどうすることを指していますか。本文中のことばを使って、三十字以内で答えなさい。

問八 本文を大きな三つの意味段落に分けるとすると、第二・第三段落はそれぞれどこからですか。その最初の五字を書き抜いて答えなさい。

問九 この文章の題として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 若者のコミュニケーション イ 聴き手のいないことば

ウ 「ひとりうなずき」の語り手 エ 誤解のコミュニケーション

問十 「コミュニケーションの難しさ」について、あなたが体験したことを紹介しながら、百五十字以上二百字以内で述べなさい。

国語 解答用紙(第一回A入試)

※のついている□には記入しないで下さい。

受験番号				
------	--	--	--	--

氏名

5

問九	問八	問七	問六	問四	問三	問二	問一
					(1)	A	ア
					(2)	B	
							イ
問十				問五		C	
						D	ウ
	10		10				
						E	
							エ
							オ
	20		20				

11

問十										問八	問七		問六		問五	問四	問二	問一	
										第二段落									ア
																		問三	イ
										第三段落									ウ
190	170	150	130	110	90	70	50	30	10		30	10			25				
																			エ
										問九									オ
200	180	160	140	120	100	80	60	40	20		20		20						